

## 普及活動検討会実施報告書

( 美里 ) 農業改良普及センター

実施月日：令和6年9月2日(月)

実施場所：美里農業改良普及センター

### 1 検討内容

No	検討項目
1	土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開
2	北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化
3	堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

### 2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	1	生活者	
若手・女性農業者		学識経験者	1
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

### 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(コメント、評価表の要約)	普及センターとしての対応方向
土地利用型農業法人の経営戦略と持続的経営の展開	3.8	<ul style="list-style-type: none"><li>土地利用型農業法人の経営戦略や将来ビジョンが見えない。戦術として、経営者の所得安定、所得率の高いサツマイモの導入は評価できる。地域農業を守り、経営継承するモデル経営体なので、経営戦略や将来ビジョンを明確化し、組合員等への浸透が必要と思われる。</li><li>高齢化等の課題を抱えた法人化後間もない経営体に対し、将来の担い手確保や周年作業の平準化、収益向上に向けた支援は良い取り組みだと思うので、他の法人等へも展開できるよう普及を図ってほしい。</li><li>持続的経営の展開には、経営資源に応じた作付けが重要で、収支分析を通じて適切な栽培体系の確立へ向け、今後も継続的な指導をお願いする。</li><li>土地利用型農業法人の高齢化が進み持続することが困難といった課題は、地域問わず共通の課題であり、中心となっている代表者・構成員のリタイアが法人の解散に繋がっております。その中で、40代の若手が代表を担っていることは素晴らしいが、高齢化に伴う構成員のリタイアにより一人一人に掛かる負荷が増加していくことが懸念されます。その前に経営感覚を養い、収益を上げられる組織づくりは、他の地域においても先進事例となると考えます。計画期間が令和7年度までとなっておりますが、地域計画とも連動しながら新たな担い手の確保と持続可能な組織づくりに</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>専門家指導会を開催し、将来ビジョン(中期事業計画)を策定して、組合員への浸透を図り、実現に向け支援し、他法人への展開を視野に入れて活動していきます。</li><li>水稲収穫作業の効率化と大豆乾燥調製による冬期作業の創出のため、補助事業を活用してライスセンターを導入しており、法人の持続的な経営に繋がることを組合員に理解されるよう支援していきます。</li><li>高収益作物導入による収益向上のため、サツマイモと長ねぎの栽培技術の向上と専門家等と連携し、部門別収支や営農計画の見直しなど持続的運営に向け、雇用を含めた組織体制の整備を支援していきます。</li></ul>

		<p>期待します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライスセンターの整備は以前の集落営農のやり方に似ている。今後の経営方針に影響が出ることが懸念される。組合員と経営者の見ている方向性が違うように思われるので、修正が必要と感じました。</li> <li>・5か年の具体的な栽培計画と販売計画が出来上がるといいと思います。多くの法人で雇用問題が生じており、従業員の高齢化が進み、若い従業員の雇用や継続雇用に向けた仕組み作りが必要だと思います。</li> </ul>	
<p>北浦梨産地活性化に向けた、ICT活用による栽培の見える化</p>	<p>4.1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用による栽培の見える化支援は、原因と結果が検討しやすくなり経営に大変有益と感じます。</li> <li>・北浦梨部会の高齢化等に伴い、栽培面積の減少が危惧されているが、若手生産者や新規参入者もあり、熟練生産者の栽培技術等（気象、病虫害発生等）をデジタル技術を活用し見える化する取り組みを活用することにより、生産者間の情報共有、産地の維持や新規参入者等に対し効果が期待される。今後、収集したデータを活用し、生産者自ら分析、情報共有等、将来的に活用できる仕組みづくりをお願いします。</li> <li>・現地の実測データ今後の栽培指導にとって非常に有用と思います。害虫の発生予察や高温対策の注意喚起など早期情報提供に繋げる事で生産量の安定化にも期待できるため、今後も継続的にデータ収集、分析をお願いします。</li> <li>・栽培環境、病虫害発生、経営管理など「職人技」の「見える化」支援は、若手生産者の技術習得や収益向上に繋げることができ、重要な取組みと考えますので、引き続きの支援をお願いします。また、「見える化」には、栽培・業務マニュアルなども、新規参入を検討する担い手が、農業を選ぶ上での検討の材料になると思いますので、今後の検討をお願いします。</li> <li>・鹿島台と北浦の気象データとの比較活用は前進と思われます。</li> <li>・栽培技術をいかに継承するかがデータ管理に繋がってくると思う。気象条件・栽培管理・土壌管理が応用できれば、肥料削減対策にも役立つと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル技術を活用して、気象条件、病虫害防除、栽培管理、経営の「見える化」を電子データでの記録・整理・蓄積を継続化することで、情報共有や活用の仕組みづくりに取り組み、ネットワーク化を通じて若手農業者の栽培技術習得と経営継承を支援してゆきます。</li> </ul>

<p>堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の改善</p>	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内産堆肥の活用による麦類の収量品質が向上する等の成果が得られると畜産農家や土地利用型農家ともプラスの取り組みとなり良いと思う。</li> <li>・町内産堆肥の有効活用を図るためには、土づくりの重要性や効果的な施肥方法等、栽培現場による栽培管理技術の確立が必須となる。昨年度からの継続課題である堆肥の有効活用支援については、堆肥の活用に前向きな生産者も多いことから、施肥施用による地力増進等の効果を期待しつつ他地域にも展開できるよう検討していただきたい。</li> <li>・追肥体系試験を通じて得られた成果を広く共有し、品質・収量の更なる向上に向けて今後も連携し継続的な指導をお願いいたします。</li> <li>・飼料価格が高騰する中、耕畜連携が進み、地域資源の有効活用が図られことに期待します。そのためには、堆肥の活用の有効性、適切な使用方法の確立が必要と考えますので、引き続き検証と効果の情報共有も合わせて行っていただきたい。</li> <li>・あらゆる角度からの検証ができていますので、今後も期待したい。</li> <li>・堆肥の散布時期・散布量の仕方で成果が出ており、堆肥活用の普及に期待しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・涌谷町では2か所の堆肥ストックヤードが整備され、小麦での3月堆肥散布による収量向上が確認されています。肥料価格が高騰する中、耕畜連携、地域資源の堆肥の活用、施肥方法の改善も含めて他地域への波及を検討します。</li> </ul>
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作物の収量品質確保のための技術・情報の提供や持続的な経営のための雇用・人材教育支援に期待しています。</li> <li>・持続的な地域農業に向けては、JA、普及センター、市の連携は重要であることから、引き続きご協力、ご支援をお願いします。</li> <li>・今後も普及活動による農業支援をよろしくをお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化による気象災害、世界情勢・円安による物価高騰など農業経営が厳しい中、農業者の所得向上を図るため、ICTを活用した技術や新規就農者の育成、法人経営への支援を行い、持続可能な農業経営の実現に向け取り組んでいきます。</li> <li>・制度改正等の情報提供を的確に行い、委員からの意見を参考に、関係機関と連携して効率的な普及活動を推進していきます。</li> </ul>

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する